授業研究

歴史

「絹の道」から「持続可能な社会の創り手」を育成する
―地域の歴史から学び、未来を切り拓く―

東京都　八王子市立みなみ野中学校　主幹教諭　**上床 肇**

1 はじめに

文部科学省は教育振興基本計画（2023）において、現代は将来の予測が困難な「VUCA※1」の時代であるとし、このような危機に対応する強靭さ（レジリエンス）を備えた社会をいかに構築していくかという観点は、これからの重要な課題であると示した。社会科の歴史的分野において、いかにVUCA時代を生きる力を子どもたちに身に付けさせることができるか。本授業では、身近な地域の学習教材を活用し、史実から時代の変化をとらえ、未来を切り拓く力を育成したい。そして、「持続可能な社会の創り手」の育成を目指す。

具体的には、八王子市の中学校において『社会科 中学生の歴史』（以下、教科書）のp.200～201「『絹の道』と日本の製糸業～幕末八王子の生糸産業から近代日本の製糸業へ～」を活用した授業実践を想定する。同一課題で行った筆者の過去の実践の様子も紹介したい。

2 地域教材活用による パフォーマンス課題

授業計画においては、はじめに**表１**のようなパフォーマンス課題を設定し、グループ活動を含め、生徒の興味・関心を高めるよう工夫した（**表２**）。

本授業実践は、「身近な地域」である八王子市の地域学習を基に、過去から学び、当該時代において持続可能な商業・産業形態を主体的に追究する。中学校学習指導要領第２章第２節社会第２歴史的分野２内容Ｃ（1）「近代の日本と世界」の中項目「ア（ｲ）明治維新と近代国家の形成」、中項目「ア（ｴ）近代産業の発展と近代文化の形成」に関連付けることができる。開国により、生糸の仲買をし、横浜への積み出しで活躍した八王子鑓水の生糸商人である「鑓水商人」が繁栄したが、相場の見誤りや鉄道等の普及など近代産業の発展により没落していくことをとらえさせたい。また、鑓水商人の救済方法を考えるため、**表２**の一連の学習活動は、学習指導要領の「課題把握」、「課題追究」、「課題解決」につながる。特に、「社会的な見方・考え方」を働かせ、解決に向けて「構想（選択・判断）」し、それを説明する力を養いたい。

表１　生徒に提示したパフォーマンス課題

鑓水（やりみず）商人を救え！

あなたはタイムマシンに乗って、明治初期の鑓水（現在の八王子市鑓水）にたどりつきました。そこでは鑓水商人が活躍していましたが、1877（明治10）年頃より、ある理由によって没落します。さて、あなたたちチームに課されたのは、鑓水商人の救済です。史実に基づいた知識とみんなの創造力で、鑓水商人を救え！

※（当時の人にとっての）未来から物などを持ち込むことはしません。同時代のアイディアで課題解決しましょう。

本授業実践では鑓水商人を扱うため、生徒は生糸について考えることとなる。生糸は明治以降の日本の輸出業を支えた品の一つである。

具体的には、17世紀に生糸は輸入品であったが（教科書p.114、p.116）、その後、全国に流通するようになった絹織物に着目した商人が、工場制手工業を始めたことが示されており（教科書p.162）、さらには、明治時代以降は輸出用生糸の生産が盛んになり、富岡製糸場が開設され、1909年には日本の生糸輸出量が世界第一位となっていく（教科書p.168、p.177、p.201

表２　授業計画概要

時	○学習目標 ■主となる問い	主として扱う内容と活動
第1時	【課題把握】 ○課題把握をし、問いを立てる。 問いの例： ■「鑓水商人とは？」など	・ウェブツールによる事前アンケートに答える。 ・課題把握をし、学習に対する問いを立てる。 ・次時のための役割分担をする。 【家庭学習】 ・反転学習を通して次時の学習を深化する。 使用教材：ＤＶＤ『八王子絹の道』(約12分）と『わがまち八王子』、教科書p.201～202　など。
第2時	【課題追究】 ○ジグソー法で効率的、協働的に知識を習得し、課題を追究する。 ■「生糸で成功した事例・人物は？」など	・ジグソー法を活用し、前時で立てた「問い」を基にエキスパートグループで知識、情報を整理する。 ・学校図書館にて作業を行い、図書資料およびウェブ資料を活用する。 ・ホームグループにて、エキスパートグループで集めた情報を共有し、鑓水商人の救済策を追究する。
第3時	【課題追究】 ○プレゼンテーション資料を作成する。 ■「鑓水商人を救済するには？」など	・前時の情報を基に、鑓水商人の救済策を追究し、次時のための簡略なプレゼンテーション資料を作成する（タブレット等を基本とし、紙や現物も可とする)。 ・学校図書館にて作業を行い、図書資料およびウェブ資料を活用する。
第4時	【課題解決】 ○発表により自らの考えを表現し、他者の発表を評価することを通して、多面的・多角的に理解を深める。 ■「授業を終えて学んだことは?」	・ポスターセッション形式によるプレゼンテーションを実施し、自分の発表時以外は他グループの評価を行う。 ・振り返りを行う。

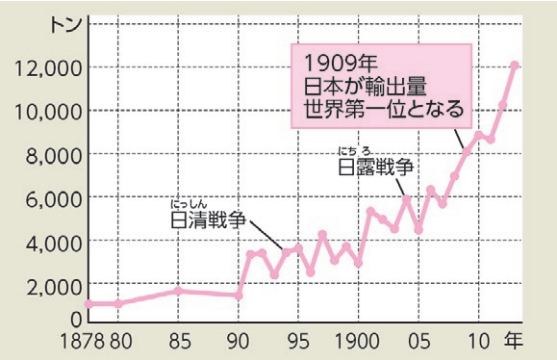

図１　『社会科 中学生の歴史』p.201
「10日本の生糸の輸出量の推移」（『日本貿易精覧』）

など。図１)。教科書p.201「9鉄道と生糸の輸出」の地図より生糸と関わりが深い都市と八王子の位置関係を確認したり、『中学校社会科地図』p.126「②江戸」を見せながら、台場の木材には鑓水から運ばれたものが多く使用されたことなどを説明したりする。

鑓水商人について考える本授業実践の一連の学習活動を通して、八王子市という身近な地域と日本、世界とのつながりやさまざまな時代背景をとらえる学習活動となる。時間、空間、相互関係などの視点に着目して事実等に関する知識を習得し、それらを比較、関連付けなどして考察・構想し、「歴史を学ぶ」学習のみならず、「歴史から学ぶ」学習を生徒に体感させ、パフォーマンス課題を通して、変化する時代を生きる力を育成したい。

なお、指導と評価の一体化を意識して、三つの観点で評価ルーブリックを作成した（図２)。「知識・技能」の観点では、時代背景をとらえ、史実に基づくこと、「思考・判断・表現」の観点では、他事例や他者の意見を考慮し、多面的・多角的に考察・表現すること、「主体的に学習に取り組む態度」の観点では、明治時代以降に持続可能な商業・産業形態についてまとめようとしていることを要件とした。３観点に基づく学習活動のループから鑓水商人の救済策を探究し、その結果を、変化の激しい時代を生きる力へとつなげていこうとするものである。第１時で生徒に提示し、主に振り返りシートを活用し、評価を行った。

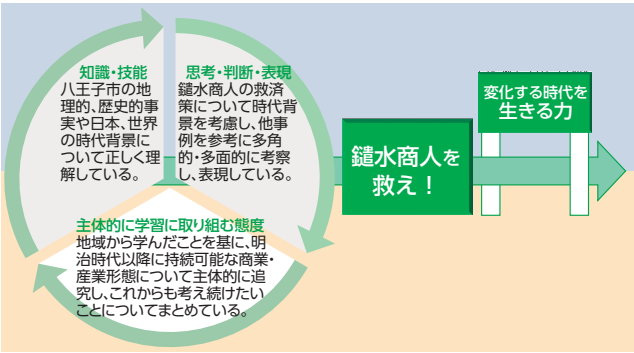

図２　授業構想と評価ルーブリック概念図

本校生徒にとって、八王子市鑓水は学校から約４kmと比較的近距離に位置するため、その地名を知る者は多い。ところが、前述したパフォーマンス課題提示後、アンケート調査（Google Forms使用）を実施すると、表３のような結果となった。

表３　事前アンケート調査結果

質問文	回答項目	人数	%
鑓水商人とは何ですか。	知っていて、説明できる	1	0.6
	知っているが、詳しい説明はできない	9	5.7
	知らない	148	93.7
八王子市は「桑都」と呼ばれているのを知っていますか。	知っていて、説明できる	39	24.7
	知っているが、詳しい説明はできない	82	51.9
	知らない	37	23.4

3 「問い」を立てさせる「個別最適な学び」

ここで、生徒に「問い」をみずから立てさせる（Google Forms使用）。主に、**表４**のような問いを生徒各自が立てた。

表４　生徒が立てた「問い」の例

- 「鑓水商人とは？」
- 「なぜ八王子は桑都とよばれたのだろう？」
- 「鑓水商人はなぜ没落したのだろう？」
- 「同時代で生糸を扱い成功した人は、何をしたのだろう？」
- 「どうしたら鑓水商人を救済できるだろう？」など

また、この「問い」に対してどのような回答が考えられるか、予想をさせた。「学びの予測」をさせることは、「主体的に学習に取り組む態度」を見取るうえでも有効である。これらの活動により、生徒一人一人の学習の必要感を高揚させ、個別最適な学びを実現させる。また、生徒たちが立てたこれらの「問い」を学習ツールにて共有して主となる四つの「問い」に集約し、ジグソー法におけるエキスパートグループでどの問いを担当するかは生徒自身に決めさせることとした。

4 反転授業による「主体的・対話的で深い学び」を実現するための時間確保

限られた授業時数の中でパフォーマンス課題を解決するための時間確保は、教師にとって苦労する点の一つである。そのため、本授業実践においては、反転授業（反転学習）の形式を一部に取り入れ、一定の知識は習得させつつも、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための時間確保を図った。なお、反転授業とは「説明型の講義など基本的な学習を宿題として授業前に行い、個別指導やプロジェクト学習など知識の定着や応用力の育成に必要な学習を授業中に行う教育方法」[※2]である。

ここでは具体的に、市教委制作のDVD『八王子絹の道』（約12分）と副読本『わがまち八王子』、教科書p.201～202を中心に生糸や産業、商業に関わる箇所、ウェブ検索、絹の道資料館等の諸施設の紹介により、家庭において事前に学習を進めることを推奨した。ここで、強制はせず、あくまでも主体性に基づく学びを担保できるようにした。第２時のジグソー法によるエキスパートグループでの活動の際に、知識を他生徒に伝えたいという者も散見され、情報収集および共有は主体的に行われた。

5 ジグソー法、ポスターセッションによる「協働的な学び」

第２時において、ジグソー法を取り入れ、生徒が協働的な学びを通して、多面的・多角的に情報を習得し、それらを有機的に結び付けながら理解を深める学習過程とした。具体的なグループ活動は以下のとおりである（**図３**）。

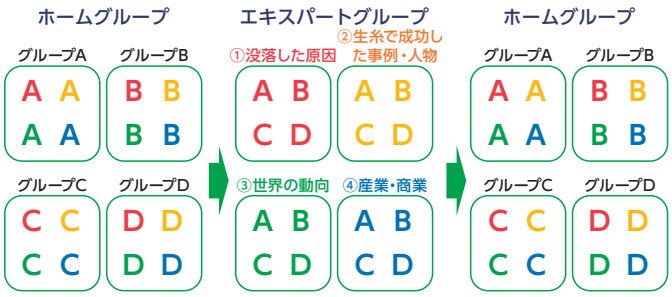

図３　本実践におけるジグソー法の具体例の構造図

生徒が立てた「問い」を参考に作成したエキスパートグループでの調べ学習を、学校図書館にて実践した。実践時、エキスパートグループにおける具体的な「問い」は、①没落した原因、②生糸で成功した事例・人物、③世界の動向、④産業・商業であった。指導側の準備としては、事前に司書の方に相談し、関連資料のコーナーを設置し、学習の効率化を図った。また、エキスパートグループの「問い」に応じて、教師が意図的・計画的に準備した資料も配付した。例

表５　人物紹介資料の一部

大塚卯十郎	鑓水出身。養蚕製糸業、組合製糸漸進社を組織。南津電気鉄道（株）創立するも途中で解散。
原善三郎	横浜商人。生糸で財を成した実業家、政治家。
豊田喜一郎	トヨタ自動車（株）創業者。父佐吉の会社地盤を引き継ぎ、自動織機（綿織物）の動力を自動車に応用した。

えば、②のグループのデスクには、表５のような人物を紹介する資料を配付した。なお、思考の集約および共有化はJamboardを使用し、効率化を図った。

第４時において、ポスターセッション形式のプレゼンテーションで、鑓水商人の救済方法について生徒に発表させた。ホームグループは４名を基本としていたため、２名が発表、他２名が他グループを見学する形式とした。２分の発表を８回繰り返し、見たいグループを自己決定できる「個別最適な学び」（学習の個性化）の視点を大切にし、他グループの評価を通して多面的・多角的な視点を獲得できるよう促した。

多くのホームグループにおいて、鑓水商人が没落した理由をとらえたうえで、同時代で成功した商業・産業との比較を通して課題解決の方法を提案することができた。具体的には、原善三郎や岩崎弥太郎等から着想し、正確な相場の把握や語学力の獲得による海外との直接のやり取りなど、商社のような業態を提案したり、鉄道業などに着目したり、八王子織物染色講習所に着目し、学校の創設を提案したりするなど、案は多岐に渡ったが、いずれも史実に基づくものとなった。

6 おわりに

生徒に振り返りを書かせる前に、史実との確認をして教師は生徒発表の価値付けを行う。時代背景や史実に基づいた立案の重要性と、いつの時代においても１）情報を得てその活用をすること、２）土地の特色、他地域、海外とのつながりを意識すること、３）付加価値を付けることの重要性に「不易」を感じる生徒がいた。さらに、「流行」をとらえたり、創出したりすることの重要性について気付く生徒もいた。また、授業実践後の生徒の振り返りの一部を以下に紹介する（表６）。

表６　生徒の振り返り（一部抜粋）

- 八王子という町が昔は全国のあちこちとつながっていたと考えると不思議な気分になった。
- 鑓水商人の没落を考えることで、時代の流れを見て考えること、情報を得ることは大切なのだと知ることができた。自分では考えることのできない角度からの意見を聞くことで驚きをもち、新しいことを知って自分の視野を広げることができたと思う。
- 歴史の授業というと、自分とは関係のない遠い所の話だと思っていたが、今回の授業を通して、八王子にもたくさんのヒトとモノが動いた大きな歴史が存在することを学んだ。先人たちの失敗や成功を自分たちが未来へつないでいけるようにしたい。
- 今回は鑓水商人を題材とし過去を振り返って救済策を考えたが、どのグループもキーワードにしていた「時代変化」というのは、これからの社会でも絶え間なく起こるものである。救済策を考えることは、これから先の私たちの人生のヒントになったのかもしれない。

これから子どもたちが生きる未来は、今まで以上に予測がつかない時代となる。生涯に渡りみずから学び、よりよい選択をし、それにより「持続可能な社会の創り手」となってほしい。本授業実践が、生徒にとって少しでもよりよく生きるための一助となることを願う。

〈注〉
※１　Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）の頭文字をとった言葉であり、より「予測困難で不確実、複雑で曖昧」な時代になることを意味する言葉。
※２　FLIT東京大学大学院情報学環・反転学習社会連携講座
https://fukutake.iii.u-tokyo.ac.jp/archives/flit/about/

〈主要参考文献等〉
・一般社団法人教育環境デザイン研究所 CoREFウェブサイト　https://ni-coref.or.jp/archives/5515
・馬場喜信（2001）『浜街道「絹の道」のはなし』　かたくら書店
・シルク博物館（2009）『シルク博物館　資料集５　ヨコハマ開港とシルク』　シルク博物館

帝国書院のWebサイトに、
ワークシートを掲載いたします。